

国語 二―一	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (歴史的かなづかい①)	名前	年 組 番
-----------	--	----	-------

【歴史的かなづかいを現代かなづかいに直す四つの法則】

- 1 語中の「は・ひ・ふ・へ・ほ・む」は「わ・い・う・え・お・ん」と直す。
「あはれ」 ↓ 「あわれ」 「いへ」 ↓ 「いえ」
- 2 「あ・ゑ・を・ぢ・づ」は「い・え・お・じ・ず」と直す。
「まゐる」 ↓ 「まいる」 「ゝゑ」 ↓ 「こえ」
- 3 「くわ・ぐわ」は「か・が」と直す。
「くわし」 ↓ 「かし」 「いちぐわつ」 ↓ 「いちがつ」
- 4 「う」が他の文字に続くと、読み方が変わる。
① 「あう」 ↓ 「おう」 あふぎ ↓ あうぎ ↓ おうぎ
② 「いう」 ↓ 「ゆう」 いうげん ↓ ゆうげん
③ 「えう」 ↓ 「よう」 こうえふ ↓ こうえう ↓ こうよう
てみてふ ↓ てうてう ↓ ちようちよう

問題 次の①～⑩の語について、例にならって現代かなづかいに直して、
すべてひらがなで書きましよう。

例 わらふ ↓ (わらう)

- ① かほり ↓ () ② いはく ↓ ()
- ③ ゑむ ↓ () ④ ぐわいこく ↓ ()
- ⑤ をとこ ↓ () ⑥ もみぢ ↓ ()
- ⑦ けふ ↓ () ⑧ あふさか ↓ ()
- ⑨ うつくしう ↓ ()
- ⑩ まゐりて ↓ ()

取り組んだ日 月 日

国語 二―二	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (歴史のかなづかい②)	名前	年	組	番
-----------	--	----	---	---	---

次の各短歌の―線部について、現代かなづかいにして、すべてひらがなで書きましよう。

例 花の色はうつりにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに

(うつりにけりないたづらに)

① わびぬれば今はた同じ難波なる身をつくしてもあはむとぞおもふ

()

② 天つ風雲の通ひ路吹きとぢよをとめのすがたしばしとどめむ

()

③ 陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑにみだれそめにし我ならなくに

()

④ いにしへの奈良の都の八重桜けふここのへにほひぬるかな

()

⑤ 人もをし人も恨めし味気なく世を思ふゆゑにものおもふ身は

()

取り組んだ日 月 日

国語 二―三	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (歴史のかなづかい③)	名前	年	組	番
-----------	--	----	---	---	---

次のおくの細道の冒頭部を、現代かなづかいにして、すべてひらがなで書きましよう。

つきひ はくたい くわかく
月日は百代の過客にして、行きかふる年もまた旅人なり。舟の上に生涯を
う 浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみか
こじん おお たび し
す。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風にさ
ひようはく おも
そはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、

解答欄

--

国語 二―四	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (書き下し文)	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	--	----	-------	---------------

基本事項確認

* 漢文の訓読について

漢字ばかりの中国語の文を漢文(白文)と言います。昔の日本人は、漢文を日本語風に読む方法を開発しました。その読み方を「訓読」と言います。漢文を訓読するためには、中国語と日本語の「語の順番の違い」と「助詞と助動詞、用言の活用語尾が表記されない」という二つの違いをクリアする必要があります。

語の順番の違いは、漢文の左下に、「返り点」を書きました。中国語では表記されない言葉は、漢文の右下に「送りがない」(小さなカタカナ)で書きました。返り点と送りがないをつけた文を「訓読文」と言います。訓読文を漢字・仮名交じりに書き改めた文を「書き下し文」と言います。

白文・・・・・・・・春 眠 不 覚 曉
 訓読文・・・・・・・・春 眠 不 覚^エ 曉^レ
 書き下し文・・・・春眠曉を覚えず

問題 次の文の中から書き下し文を二つ選び、記号で書きましよう。

() ()

ア 少年老い易く、学成り難し

イ 不 亦 説 乎

ウ 我 読^ム_レ 書^フ

エ 百聞は一見に如かず

オ 不^レ 合^ハ_レ 理^ニ

カ 歲月人を待たず

キ 夜 来 風 雨^ノ 声

ク 花 落 知 多 少

国語 二一五	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (返り点)	名前	年 組 番
-----------	--------------------------------------	----	-------

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

基本事項確認

*「返り点」について

漢文の語の順番を日本語と同じ順番で読むために、白文の左下につけたもの。

① レ点(れてん)・・・下の一字をすぐ上の字の前に持ってくる。

□_レ ○_レ ↓ ○ □ 習_レ 之_レ ↓ 之を習ふ

② 一・二点(いち・にてん)・・・二点の下から一点までの漢字を二点の上に持ってくる。

□_ニ ○_ニ △_レ ◎_一 ↓ ○ △ ◎ □

③ レ点と一、二点の組み合わせ

□ ○ △_レ ◎_ニ ☆ ※_一 ↓ □ ○ ☆ ※ ◎ △

問題 次の返り点のついた□は、どの順番で読みますか、例にならって

順番を数字で答えましょう。

例	①	②	③	④	⑤
□ _ニ	□ _レ	□ _ニ	□ _レ	□ _レ	□ _レ
2	2	2	2	2	2
□ _一	□ _レ	□ _レ	□ _レ	□ _レ	□ _レ
3	3	3	3	3	3
(2 3 1)	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()

国語 二一六	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (送りがな)	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	---------------------------------------	----	-------	---------------

基本事項確認

*「送りがな」について

漢文を訓読するために補った助詞や用言、助動詞の活用語尾などのこと。

漢字の右下にカタカナでつける。歴史的かなづかいで書く。

書き下し文に直すときは、送りがなはひらがなで書く。

送りがな

処 処 啼 鳥^ラ 聞^ク



処 処 啼 鳥 を 聞 く 書き下し文



*「置き字」について 訓読の時に読まない漢字のこと。

文中の【而 於】 文末の【矣 焉】 など

*漢文中の【不^ズ也^{ナリ} 自^リ之^の】など日本語の助詞、助動詞に当たる語は、ひらがなで書く。

問題 次の漢文を送りがなに気をつけて、書き下し文に直しましょう。

例 学^{ビテ} 而 時^ニ (学びて時に)

① 吾^ガ 盾^の之^の 堅^{キコト} ()

② 兵 少^{ナク} 食 尽^ク ()

③ 国 破^{レテ} 山 河 在^リ ()

④ 今 春 看^ス 又 過^ゲ ()

⑤ 孤 帆^ノ 遠 影 碧 空^ニ 尽^キ ()

国語 二一七	中学校第一学年の内容 文語のきまり・訓読のしかた (書き下し文)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

問題 次の漢文を返り点にしたがって語の順番を変え、書き下し文に直
しましょう。

例 不^ズ 合^{ハレ} 理^ニ (理に合わず)

① 疑 心 生^ズ 暗 鬼^ラ。

()

② 良 薬 苦^シ 於^ニ 口^ニ。

()

③ 歳 月 不^ズ 待^{タレ} 人^ヲ。 ※ヒント：「不」は「ず」と書く。

()

④ 低^{タレ} 頭^ヲ 思^フ 故 郷^ヲ。

()

⑤ 百 聞^ハ 不^ズ 如^カ 一 見^ニ。 ※ヒント：「不」は「ず」と書く。

()